

生まれてくる命

お母さんから赤ちゃんへのはじめてのおくりもの

～産まれた時から赤ちゃんをRSウイルスから守りましょう～

RSウイルス感染症とは

RSウイルスは乳児の細気管支炎やウイルス性肺炎の主な原因であり、ほぼすべての乳幼児が2歳までに感染するとされています。特に生後6か月未満で感染した場合、重症化するといわれ日本では毎年12～14万人の2歳未満の乳幼児がRSウイルス感染症と診断され、そのうちの約4分の1に入院が必要となると推定されています。現在、RSウイルスによる肺炎に対して特効薬はなく対症療法（症状に対する治療）のみとなります。

（出典 ファイザー）

RSウイルスワクチンの効果

このワクチンは妊娠28週～36週の間一度接種します。接種後2週間でお母さんの体の中で十分な量の中和抗体が産生され、胎盤を通して赤ちゃんへ移行します。移行した中和抗体は赤ちゃんが生まれた時から6か月まで効果を発揮し、感染後の重篤化を予防することが期待できます。

当院でもRSウイルスワクチン（アブリスボ[®]筋注用）接種を開始します。

接種推奨時期： 妊娠28週～妊娠36週ごろまで

料金 ：**30,000円**

詳しくはスタッフまでお問い合わせください。

鈴木病院